

最新統計

人口の推移

(単位：人)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 11月末	平成21年 12月末	平成22年 1月末
気仙沼市	78,011	75,324	75,298	75,236
南三陸町	18,645	17,895	17,870	17,840
合計	96,656	93,219	93,168	93,076

世帯数の推移

(単位：世帯数)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 11月末	平成21年 12月末	平成22年 1月末
気仙沼市	25,510	26,608	26,616	26,600
南三陸町	5,335	5,360	5,363	5,360
合計	30,845	31,968	31,979	31,960

**平成21年9月1日に気仙沼市と本吉町は、
合併しました。**

気仙沼魚市場水揚げ実績 (数量：トン，金額：千円)

漁業別	平成21年(暦年)		前年同期比	
	数量	金額	数量	金額
鮪延縄	14,441	4,807,800	114	1,183,314
鯉一本釣	18,778	5,241,066	16,353	4,768,066
秋刀魚受網	32,268	1,790,577	7,669	350,869
近海大目流網	5,529	1,347,028	1,781	631,009
旋網	10,445	2,563,099	5,145	1,194,211
定置網	3,428	608,615	1,088	247,750
船凍鮪延縄	424	167,482	28	102,686
冷凍いか釣	137	38,633	163	39,054
曳網・抄網	5,888	229,071	634	89,378
搬入	2,826	2,211,825	295	112,928
その他	1,385	601,580	190	52,662
合計	95,549	19,606,776	32,490	8,440,747

平成21年(暦年)水揚げ実績は、前年度比25.4%減と大きく割り込み、金額では昭和49年以来35年ぶりに200億円割れとなった。

「気仙沼地域

子ども虐待対策連絡協議会」開催

(東部児童相談所気仙沼支所)

平成21年12月2日(水)、気仙沼保健福祉事務所を会場に、管内の児童福祉関係機関、教育関係機関、人権擁護機関、警察、医療機関等の代表者が集まり、管内の児童虐待の現状と対策を話し合いました。

当協議会は、県レベルの「宮城県子ども虐待対策連絡協議会」と市町村の「要保護児童対策地域協議会」の中間に位置する組織で、虐待防止・予防に関する地域的な課題の把握と対策を考え、市町村の相談援助活動

の支援や活動強化を目的に設置されています。

当地域の



会議の様子

昨年度の虐待相談件数は、3年前の2.3倍となっており、今年度は、上半期ですでに昨年度1年間の相談件数に匹敵するなど、増加傾向に歯止めがかからない状況です。

虐待の予防や早期発見については、子どもを取り巻く関係機関が機能的に結びつき、情報や意識の共有を図りながら迅速な対応をすることが必要であり、とりわけ、相談の第一義的な受付窓口であり、中心的な役割を果たす市町の意識向上と対応力強化が望まれます。

「気仙沼地域

子ども虐待対策連絡協議会研修会」開催

(東部児童相談所気仙沼支所)

平成21年12月2日(水)、気仙沼保健福祉事務所を会場に、管内の保育所、学校、幼稚園等、福祉や教育関係者等約40人の参加をいただき、研修会を開催しました。

講師の東北福祉大学千葉喜久也准教授からは、

昨今の保育や教育の現場では、複雑多岐にわたる保護者からの相談や対応の難しさに苦慮しており、一部の行政機関や援助者だけでは支えきれなくなっ



研修会の様子

ている現状が報告され、支援が必要とされる子どもや家族に対しては、関係機関や地域がまとまって、情報の共有や対応方法の統一を図りながら支えていかなければならないといった話がありました。

気仙沼地域は、県内でも利用できる社会資源が少ない地域ですが、今後は限られた資源を上手く組み合わせながら、いかに支援の輪を広げていくことができるかが課題であるとの認識を新たにした研修会でした。

「心身障害児を持つ保護者の研修会」

(東部児童相談所気仙沼支所家庭支援班)

平成21年9月から11月まで6回シリーズで、気仙沼保健福祉事務所を会場に、自閉症スペクトラムなどのコミュニケーションに障害を持つ子ども達の保護者を対象とした研修会を開催しました。

子ども達の保護者が障害について知識を深め、家庭での適切な療育ができるようにスキルアップを図ることや、同じ悩みを抱えた保護者同士が情報交換を行う機会を提供するために開催したものです。

研修では、子ども総合センターの児童精神科医の講話や、気仙沼市教育委員会や気仙沼特別支援学



研修会の様子

校、発達障害者支援センターからも講師を招き、子どもに対する日頃の対応方法から、将来の就

学、就職に渡る話題も提供され、参加したのべ50人の保護者にとっては、子どもの今と今後を考えていく上で有意義な研修会となりました。

犬の多頭飼育事件で保護した犬の譲渡

(気仙沼保健福祉事務所食品薬事班)

平成21年10月に亘理町内において、39頭の成犬を知事の許可なしに指定地域で飼育していた者が、化製場等に関する法律違反で逮捕される事件がありました。

飼育されていた犬の取扱いについては、県警からの依頼により各保健所が新しい飼い主を探すことになりました。

当所には「シーズー」、「パピヨン」、「ポメラニアン」など7頭が割り当てられました。当所では、ホームページや子犬の譲渡希望者に対して情報提供しましたが、保護犬が成犬だったため、10月末時点で2頭しか譲渡することができませんでした。このことから「保健所で犬の新しい飼い主を探しています」と地元紙に掲載依頼したところ、記事が掲載された11月1日より住民からの問い合わせや譲渡希望者が殺到し、あっという間にすべての保護犬を譲渡することができました。

なお、今回保護された39頭の犬は、11月中旬までにすべて新しい飼い主が決まりました。



地元紙に掲載された記事

非常炊き出し訓練の実施

(気仙沼保健福祉事務所企画総務班)

当事務所では、11月25日(木)に非常炊き出し訓練を実施しました。

これは、非常時における住民組織との連携による救援体制の確立を図ることを目的として、毎年実施しているもので、今回は地元の日赤奉仕団新月分団から約20人の方々に協力いただきました。

訓練は多くの被災者への配給を想定し、ハイゼックスという特殊な袋を使い約100人分を調理しました。ハイゼックス袋は1袋で米1合の炊飯ができるなど、短時間で大人



炊き出し訓練の様子

数の食事を提供することができます。また、訓練に先立ち、気仙沼保健所の西條所長を講

師に、「新型インフルエンザとその予防」と題した講演を実施し、参加者に新型インフルエンザの特徴の紹介や、日常の感染防止に向けた注意喚起をおこないました。

今回の訓練を通じて、災害時における住民組織との連携を図ることができ、参加した日赤奉仕団新月分団の方々からは「こういった連携が大切」、「とても有意義であった」との感想が寄せられました。

「気仙沼、小前見島における

松保全業務研修会の開催」

(気仙沼地方振興事務所農林振興部林業振興班)

平成21年10月13日(火)、気仙沼市大島地区振興協議会は、(社)国土緑化推進機構の「緑の募金公募事業」を活用して、気仙沼市小前見島で松保全業務の視察研修会を開催し、会員11人の参加がありました。

最初に、林業普及指導員が松保全業務の概要(伐倒駆除・薬剤散布)について説明をし、7月14日に設置したマツノマダラカミキリ誘引器を観察、マダラカミ

キリは捕獲されず「まるくびひらたかみきり」と思われる虫が誘引器に27匹入っていました。



マツノマダラカミキリ誘引器の観察の様子

当島は、松林のもつ公益的機能が期待され、高度公益機能松林にも指定されています。

残念ながら、平成19年から松くい虫被害が発生し同年から防除をしていますが、被害の拡大が懸念されています。

このため松くい虫被害防除を、より強化すべく平成22年度から薬剤散布が実施される予定となっています。

参加者は、松保全業務、特に薬剤散布の概要について理解を深められました。

「第2回船員就業フェア in 気仙沼」の開催

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部漁業調整班)

平成21年11月12日(木)に気仙沼市水産振興センターにおいて宮城県北部船主協会主催の「第2回船員就業フェア in 気仙沼」が開催されました。日本人船員不足の解消を目指す就業フェアは、本県では平成21年3月に続き2回目の開催となり、乗組員の高齢化で定員割れが懸念される海技資格者の確保と遠洋・近海鮪船などの幹部候補生を募集するもので、県の漁船漁業新規担い手確保支援事業を活用したも



フェア当日の様子

のです。前回同様に市内の12社がブースを設け、遠洋・近海まぐろ船のほか、漁業取締船が船員を求めて参加しました。海技資格を持つ経験者や海技資格

取得を目指す船員に加えて、漁業に携わったことがない未経験者も募集の対象となっており、前回のフェアでは未経験者の年齢制限を22歳以下としていましたが、今回は28歳以下としました。

当日は、28人の募集に対して33人の応募があり、6人の採用が内定しました。内定した6人のうち5人が今春高校を卒業する新人でした。内定者は各種基礎研修を受けた上で、大海原へ旅立っていきます。地域の基幹産業である水産業を守り続けていくためにも、今回内定した若い力に期待が集まります。

今期のサケ沿岸漁獲及び河川捕獲状況

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部水産振興班)

1 沿岸漁獲状況

今期の管内サケ水揚数量は約5,400トン、水揚金額ではおよそ14億円となりました。昨年と比較すると数量は昨年並みとなりましたが、金額は単価が昨年より低かったことから8割に留まりました。なお、市場別では気仙沼市魚市場で約1,600トン、県内一のサケの水揚量を誇る南三陸町地方卸売市場(志津川魚市場)で約3,700トンとなり、その他、岩手県の大船渡魚市場への水揚げが約100トンありました。

2 河川捕獲及び採卵状況

今期の管内河川捕獲数は昨年の1.2倍の約18万尾、採卵数は昨年並みのおよそ42百万粒となりました。なお、気仙沼市の津谷川(小泉川)では約8万尾が捕獲され、県内史上最高を記録し、また、同市内の大川、南三陸町の八幡川、水尻川、水戸辺川でもそれぞれ順調に親魚が捕獲され、管内のふ化団体はふ化放流事業の実施に十分な数量の卵を確保しました。

現在、各ふ化団体の施設(ふ化場)では卵からふ化した稚魚の飼育作業が本格化し、一部は既に河川への放流が始まっています。また、一部の沿岸では、稚魚の回帰率向上を目的とする海中飼育も始まりました。人の手で大事に育てられ、放流されたサケ稚魚は、4~5年後に立派な「秋サケ」となり故郷に帰り、再び管内の市場を賑わせてくれることを期待しています。



津谷川でのサケ河川捕獲の様子

「高病原性鳥インフルエンザ

地方情報連絡会」の開催

(気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

12月15日(火)に気仙沼合同庁舎で「高病原性鳥インフルエンザ地方情報連絡会」が開催され、気仙沼市、南三陸町、警察署及び県(家畜保健衛生所・保健福祉事務所・土木事務所・地方振興事務所)の担当者約25人の職員が出席しました。

県では高病原性鳥インフルエンザ対策本部要綱を定め、関係機関が各種対策を円滑に推進することにしております。その一環として、この連絡会議は気仙沼管内において高病原性鳥インフルエンザが発生したときの防疫その他の対策について情報共有するとともに、各機関が発生時にやるべき作業を確認することを目的に開催したものです。

当日は、東部家畜保健衛生所から高病原性鳥インフルエンザ発生状況及び発生時の防疫対応についての説明、気仙沼保健福祉事務所から高病原性鳥インフルエンザの人への感染対策についての説明、気仙沼地方振興事務所から高病原性鳥インフルエンザ現地地方支部運営要綱等についての説明があり、最後に気仙沼保健福祉事務所の指導により感染防護服の脱

着を実際に行いました。

近年、家きん類にしか感染しなかった高病原性鳥イン



防護服着脱の様子

フルエンザ(H5N1)のヒトへの感染例が報告されていることから、いざ発生した場合、被害を拡大させないためにも関係機関の連携・協力が必要であると思われる。

東北農村青年会議で

本吉地区4Hクラブの吉田氏が最優秀賞を受賞！

(本吉農業改良普及センター地域農業班)

平成21年11月4日～6日に秋田県秋田市で開催された東北農村青年会議において、本吉地区4Hクラブ連絡協議会副会長の吉田和広氏が、宮城県代表としてプロジェクト発表部門で発表を行いました。吉田氏は農業機械(シリンダーカッター)の改良について、「ガラクタ集めて楽しむ農業」の題で発表を行い、見事最優秀賞を獲得しました。

最優秀賞を受賞した吉田氏は、平成22年3月に行われる全国青年農業者会議に東北代表として発表を行うこととなり、さらなる発表内容の充実を図っていきたく話していました。また、シリンダーカッターのさらなる改良や、その他の農業機械の改良についても計画しており、「楽しむ農業」を広めて、地域に貢献していきたいという意気込みを語っています。

普及センターにおいても、吉田氏の全国大会での発表や、今後の地域における活動を支援していく予定です。



吉田氏受賞の様子

「にいつき軽トラ市」の定例市で

地元の小学生たちが焼き芋を販売する

(本吉農業改良普及センター地域農業班)

農産物直売市の「にいつき軽トラ市」は、気仙沼地域の地産地消を促進するため地元農業者らによって運営されていますが、平成21年11月14日に地元小

学校の農業体験学習に協力し、生徒たちが定例市の会場で自ら作ったさつまいもを販売しました。



にいつき軽トラ市の様子

今回体験学習を行ったのは気仙沼市八瀬地区にある月立小学校の1,2年生たちで、軽トラ市へは昨年に続いての参加です。

販売した農産物は、生徒たちがPTA会員である青年農業者の指導を受け、学校農園で管理して10月末に収穫したさつまいもで、この日のために焼き芋作りに適した品種「紅あづま」150本も用意しました。

小学生たちが参加した日はあいにくの雨模様でしたが、父兄らが協力して天幕を張り、焼き芋器を会場へ運び込みました。生徒らは香ばしく焼けた芋を客に勧め、代金を受け取ってお礼をするなど、普段の生活ではできない貴重な体験をしていました。

普及センターでは今後とも地域の農業者らと協力して、次代を担う子供たちに対する食育への支援を行っていきます。

「平成21年産気仙沼コシヒカリ」の求評会を開催

(本吉農業改良普及センター先進技術班)

気仙沼市羽田の「日本一美味しい米づくり研究会」では、平成21年12月19日に研究会のPRイベントとして、気仙沼市内の催事場で求評会を行いました。関係機関や消費者団体、飲食店等20人を招待し、会員と共に21年産新米の試食を行なうもので、昨年に引き続き2回目の開会となります。

今回会員から提供された米は、平成21年11月28・29日に福島県で開催された第11回米・食味分析鑑定コンクールで二次審査を通過した、コシヒカリとひとめぼれです。

参加者からは、ひとめぼれは柔らかめでモチモチ感があり、コシヒカリはコシや弾力がある、といった評価がなされ、おかずなしでも食べられる米だと好評で

した。

求評会の最後には研究会長が、来年度もうまい米生産にはげみ、島根県で開催される次回コンクールでぜひ会から入賞者を出したい、という決意を表明し閉会しました。

普及センターでは良質米の生産に向けて、今後も同研究会の活動を支援することとしております。



求評会の様子

女性グループによる

“ちぢみ雪菜”の収穫・出荷が始まる

(本吉農業改良普及センター地域農業班)

平成21年8月に南三陸町童子下集落内の女性6人が結成した女性グループ「ビーンズくらぶ」は、中山間地で遊休農地への園芸作物を作付けし、所得の向上を目指して活動しています。

「ビーンズくらぶ」では、9月25日に“ちぢみ雪菜(広瀬ちぢみ菜)”を播種しており、12月6日には初の収穫を行い、その翌日には出荷目揃え会を開いてJAと普及センターが指導にあたりました。

ちぢみ雪菜のような形の葉菜を袋詰めするのは初めてで、大小の株を組み合わせて上手に詰めるのに苦労する場面もありましたが、やがて調製作業が終わった野菜は、JAを通して市場へ出荷されました。

作業に当たった女性たちからは、ひとりでは退屈な



出荷の様子

仕事も皆と話をしながら取り組めば苦にならず、作業をしに来るのが楽しみだという声が上がっています。

普及センターでは、遊休農地を活用した新たな園芸品目導入による所得向上や組織運営の手法等を指導しており、こうした活動が地域農業活性化の一助となるように育成支援を続けていきます。

栄養士会研修会で講師を務めました

(気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

平成22年1月22日(金)、気仙沼保健福祉事務所で気仙沼管内栄養士会主催による会員対象の研修会が開催され、当所職員も講師として参加しました。

地域の方々の食と健康づくりに携わる栄養士の方々にとって、食の安全は大きな関心事。今回は、「食品の表示」と「農作物の安全と農薬」をテーマに、研修会が開催されました。

第1部では、気仙沼保健所職員と当所職員がそれぞれ、健康増進法や食品衛生法、JAS法に基づく食品表示のルールや食品を選ぶ際のポイントについて解説しました。

第2部では、当所職員が、農薬の歴史や使われ方、植物としての農作物の特性、食品の安全性がどう担保されているか、等について解説し、「天然物なら安全で人工物質が危険とは限らない。農薬に関しては不安を煽る情報が多いので、一呼吸置いて接してほしい」と結びました。

受講した会員の方々には、「植物が天然物で身を守っているとは知らなかった。勉強になりました」等概ね好評で、農薬だけでなく農業全般について、沢山の疑問・質問をいただく機会になりました。

本吉響高校

もうか肉等を用いたアイデア料理に挑戦!

(気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

宮城県本吉響高校主催のよるモウカサメ肉(ふか肉)を用いた料理講習会が、地元寿司店の「ゆう寿司」の加藤昌之氏を講師として、平成22年1月14日(木)に開催されました。

料理講習会には本吉響高校の総合学科でフードデザインを選択している2年生17人が参加し、「もうか肉のサラダ巻き」、「サメバーグ」、「ふか肉と皮入りお好み焼き」、「気仙沼チャウダーちょっとアザラ風モ

ウカバージョン」,「カボチャプリンDeモウカの皮入り」の5品の料理に挑戦しました。当日はテレビ局を含む多くのマスコミ取材があり,生徒たちは普段の実習とは違った雰囲気の中,緊張した面持ちで調理に取り組んでいました。



マスコミ取材の様子

調理後の試食会では,生徒から「魚は嫌いなのに,サメ肉はあっさりして食べやすい」,「臭みもなく柔らかくて美

味しい。食材があれば家でも作ってみたい」などの感想を聞くことができました。

なお,気仙沼地方振興事務所では,地域振興の一環として消費者の認知度が低く,利活用について潜在的な可能性を秘めている“ふか肉”などの地元食材の利用促進や消費拡大を図るため,地域住民の団体等が開催する「料理講習会への食材提供等」を行っており,今回,本吉響高校の料理講習会において実施したものです。



料理講習会の様子

一関・平泉・藤沢地域と気仙沼・南三陸地域の観光振興に関する懇談会

(気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

平成22年2月18日(木),気仙沼・南三陸地域と岩手県の一関・平泉・藤沢地域の観光関係者等による懇談会が一関

市内のホテルで開催され,観光振興に向けた両地域の連携のあり方について意見交換を行いました。これは,本年度発足した気仙沼・南



懇談会の様子

三陸観光戦略会議の呼びかけで行われたもので,両地域の商工会議所,観光協会及び行政の役職員が26人出席しました。

懇談会では両地域から,「気仙沼・南三陸観光戦略会議の取り組み」,「一関・平泉・藤沢地域の観光振興の取り組み」,「平泉の文化遺産世界登録の推進の近況」について紹介がありました。

また,今後の観光振興に向けた連携については,「両地域を巡る観光マップを作成したらいいのではないか」,「歴史的な繋がりを調べて,一体的にアピールすることが重要である」,「パートナー機関同士の担当職員レベルの推進が必要である」,「地域の特性である海産物と農産物の物産交流から始めてはどうか」などの提案があった。

今回の懇談会で取り上げられた課題や提案については,今後,担当職員レベルで継続的に話し合いを続けていくことになり,両地域の連携がより一層強化されることが期待されます。



懇談会の様子

【あとがき】

「南三陸きらきらいくら丼」！！

平成21年12月から平成22年2月末までの期間限定で、南三陸町飲食店組合の6店舗で提供されて大好評である。「南三陸A級グルメ」として旅行情報誌やテレビに取り上げられ、行列ができるほどの人気である。

この企画の第2弾として、3月からは「南三陸きらきら春つげ丼」が売り出されることになった。食材には春告げ野菜、メカブ、旬の魚介類を3点以上使用するという、共通ルールのもとで提供されるということである。今回も旅行情報誌に紹介されるという。

「春つげ」と言う言葉はこころをウキウキさせてくれる。寒い冬から待ちこがれたように、いろいろな植物が芽吹く季節でもある。もうすぐその季節である。

ところで、「南三陸春告げやさい」は平成16年からブランド化に向けて、管内200戸以上の農家で栽培されている。当地域は冬に雪が少なく、日照時間が多い。その立地条件を活かして、冬から早春に向かって栽培される野菜を「南三陸春告げやさい」と名づけ、南三陸からひとあし早い春を食卓に届けています。ゆでて食べるとそのままでも本当に甘い野菜です。品目は「ちぢみほうれんそう」「春立ちなばな」「三陸つぼみな」「なばな」「ふきのとう」「ちぢみゆきな」「アスパラ菜」の7つです。

是非、皆さんに南三陸の春を味わって欲しいと思います。